

AR 台本

製作

SUNRISE
パナソニック
パナソニックエンタテインメント

THE ガンダム

ACT:16

The Day Of Advent

48

注意

サンライズアニメ制作用資料です。
無断で複製、有償・無償譲渡、貸与、
交換等した場合は、法律により罰せら
れる場合があります。

修



『神の名においてこれを鑄造する。汝ら罪なし』

〈12世紀のドイツの死刑執行人達の刀剣に刻まれた文字より〉

制作スタッフ

企 画	サンライズ
原 作	矢 立 肇
コンセプトワーク スーパーバイザー	さとうけいいち

監 督	片 山 一 良
-----	---------

シリーズ構成	小 中 千 昭 片 山 一 良
キャラクターデザイン メカニカルデザイン	さとうけいいち
美術デザイン	佐 藤 肇

音 楽	佐 橋 俊 彦
音楽プロデューサー	野 崎 圭 一 (ビクターエンタテインメント)

美術監督	太 田 大 (美峰)
色彩設計	中 里 智 恵
撮影監督	福 士 亨 (T2)
編 集	山 森 重 之 (ジェイフィルム)

音響監督	鶴 岡 陽 太
------	---------

音響効果	庄 司 雅 弘 (フィズサウンド)
録 音	はた しょうじ
録音スタジオ	スタジオごんぐ
音響制作	楽 音 舎
音響制作担当	杉 山 好 美

ビデオ編集	キュー・テック
-------	---------

制作デスク	田 村 一 彦
アシスタントプロデューサー	石 川 達 大
プロデューサー	杉 田 敦
	内 田 健 二
	大 橋 千 恵 雄



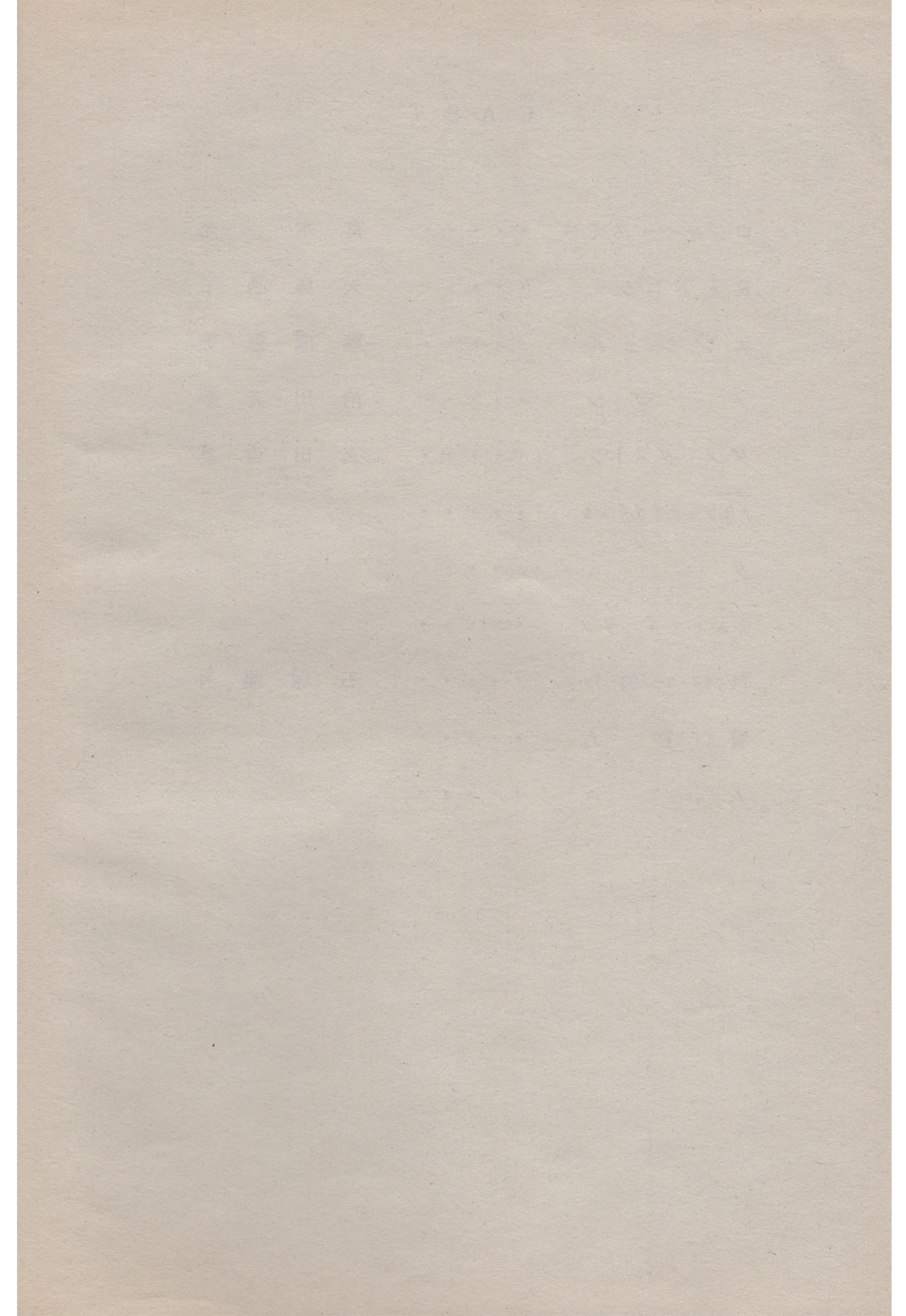
ACT:16

The Day Of Advent

脚	本	小	中	千	昭
絵	コンテ	渡	邊	哲	哉
演	出	渡	邊	哲	哉
キャラ	作監	平	山		円
		堀	井	久	美
メカ	作監				
制作	進行	望	月		敦

C A S T

ロジャー・スミス	宮 本 充
R・ドロシー	矢 島 晶 子
エンジェル	篠 原 恵 美
ノーマン	清 川 元 夢
ダン・ダストン	玄 田 哲 章
アラン・ダイブリエル	
タ ミ	
ジム・マゴーン	
アレックス・ローズウォーター	石 塚 運 昇
警 官 A	
人 々	



4	3	2	1	画面	音声
<p>薄汚れた古いビルの窓 雪が降ってくる</p>	<p>外を見ているタミ TB 窓ガラスに写りこむパラ ダイムのドーム</p>	<p>FI 明るいセントラルド ームよりPU 暗く広がるアウトオブド ーム</p>	<p>FI 暗い廊下を転がるボール 追って入ってくるタミ 明るい所へいくボール 立ち止まってしまふタミ PAN 壁に当たり止まる ボール FO</p>		
<p>ロジャー(M)「だが、メモリーは、時に思わぬ形 で姿を現す</p>		<p>ロジャー(M)「ここはパラダイムシティ。四十年 前に記憶を失った街」</p>			

11	10	9	8	7	6	5	
アオリ ビルの谷間なめ上	空を見上げてる二人の女	光を見ている人	窓から見ているタミ 向いて、大声で	ビルの向うに落ちていく光	見上げてるタミ と、空に光が溢れる その光に!!となるタミ	窓外を降る雪	気づいて上を見るタミ
			タミ 「おじいちゃん！ 天使様っ、おじいちゃん が言ってた 天使様だよっ!!」		タミ 「!!」	← ← ← ← ┌	

18	17	16	15	14	13	12	
交差点に開いクレーター 中央に光る物体 FO	PAN 路上に集まるホム ムレスの人々	嬉しそうに見つめるタミ	炎がビル群のシルエットを 浮かび上がらせる	ビルの谷間に落下する光 光、炎、衝撃波が広がる	車のミラーに写る 光、ミラー一杯になつて	ビル群に落ちていく光	空を通過する光
				(SE) ドド——ン			

25	24	23	22	21	20	19
再び手を伸ばすロジャー コーヒーを飲む	新聞の写真 PAN	!?!と新聞近づけるロジャー	ムツとしてるドロシー	新聞読んでいるロジャー コーヒーを飲む カップを置く ノーマンが置き直す	ムツとしてるドロシー	ロジャー邸(朝) PU
ロジャー(off)「うん? ああ:」 (SE) (コーヒーをすすする)ズズツ:	ロジャー(off)「:降臨:」 ドロシー(off)「ロジャー」	ロジャー「!?!」		ドロシー(off)「朝食の時に新聞を読むのはお行儀が悪いわ」 ロジャー(off)「うん(生返事)わかってるよ:」	ドロシー「ロジャー」 ロジャー(off)「うん?」	

32	31	30	29	28	27	26
<p>集まっている人々 グリフォンが停まっています</p>	<p>車内より外に行く人々</p>	<p>グリフォンの中のロジャー</p>	<p>走るグリフォン 手前にも人 PAN</p>	<p>運転席のロジャー</p>	<p>笑顔で横切っていく人々 クラクションに道をあける</p>	<p>ドロシー ムツとして 立つと、左へOUT</p>
<p>人々 「(ガヤ)」 (SE) (グリフォン停車) キイツ</p>	<p>←</p>	<p>ロジャー(M) 「光に包まれてこの記憶を失った街に降りてきたのは、一体何だったのか」</p>	<p>ロジャー(M) 「何か変化が起きようとしているのだろうか」</p>	<p>(SE) クラクション (グリフォン)</p>	<p>(SE) クラクション (グリフォン)</p>	<p>ドロシー「!!」</p>

37	36	35	34	33	
<p>無視して質問する</p> <p>止まるロジャー</p> <p>クレーターのふちまで来て</p>	<p>迫るクレーター</p>	<p>無視</p> <p>歩くロジャー 警官の声を</p>	<p>平然と歩いていくロジャー</p> <p>気づく警官</p> <p>ロジャー</p> <p>人だかりをわけて出てくる</p> <p>警官なめ人だかり</p>	<p>ドア閉じて前へ出る</p> <p>ロジャー ため息ついて</p>	<p>出て来るロジャー</p>
<p>警官A 「オイツ！ 勝手に入るなって言ってるだろう!!」</p> <p>ロジャー 「ここに何が落ちて来たんだ」</p>		<p>警官A (off) 「おい、その人」</p>	<p>警官A 「!？」</p> <p>人々 「おい、おすな」</p> <p>「何だよ」等 A D</p>	<p>ロジャー 「ふう…」</p>	

42	41	40	39	38
二人 底見つめたまま	クレーターの底	敬礼で答えて駆け足で去る ロジャー 底見たまま質問	背すじのばす警官A 反対側に来るダストン	ムツとなる警官A そこへダストンの声 見る警官A
ダストン「街の連中は皆、天使が降りて来たつて言っている」	ダストン (off) 「パラダイム社の調査員が待ちかまえてたかの様に現われてな。南の方に運んで言った」 ロジャー (off) 「ほう：海に？」	警官A (背) 「ハッ」 ロジャー 「あんたも見てないって？」	警官A 「大佐？」	警官A 「ハア!! お前、一体自分を何様だと思ってる？」 ダストン (off) 「オレ達も見えない」

46	45	44	43	
<p>入口、立ち止まるロジャー 辺りを見る</p>	<p>路上に座り、見てる老人達</p>	<p>さびれた外観のホテル PD 入口へ歩いていくロジャー</p>	<p>歩きながら会話するロジャー ノーマンの声に立ち止まる</p>	<p>ロジャーの時計よりコール サインが呼ぶ 見るロジャー ことわりを入れ、その場を 離れる</p>
	<p>ノーマン (通信) (off) 「ロジャー様がそちらにいらっしゃるとお話ししましたら、近くなのでそこで待つと仰られておりまして…」</p>	<p>ノーマン (通信) (off) 「いえ、それが…」</p>	<p>ノーマン (通信) (off) 「ロジャー様、御依頼の方がお会いしたいと」 ロジャー 「判った、戻る」 ノーマン (通信) (off) 「いえ、それが…」</p>	<p>ロジャー 「天使？」 (SE) (時計のコールサイン) ピピピピ ダストン 「？」 ロジャー 「失礼」 ロジャー (背) 「何だ、ノーマン」</p>

52	51	50	49	48	47	
立っているタミ	ボールを拾うロジャー 向くロジャー、来るタミ	足に当たるボール 取り上げるロジャーの手	階段前、立ち止まる 階段から落ちてくるボール !?!と向くロジャー	サングラスをはずしながら 入ってくる	人がいない室内 入ってくるロジャー	ノブに手をかけ、少し開く
タミ 「ええ、そうよ。返してくださる？」	ロジャー 「君のかい？」					

58	57	56	55	54	53
置かれるカップ	<p>握手を求めるロジャー</p> <p>無視して階段へ向かうジム</p> <p>苦笑するロジャー</p>	<p>立ち止まって</p> <p>奥より来るジム</p>	<p>？のロジャー</p> <p>向く</p>	<p>笑顔で受け取るタミ</p> <p>階段を上っていく</p>	<p>笑顔で答えるロジャー</p> <p>ボールを投げる</p>
	<p>ロジャー「では、あなたがジム・マゴーンさんですね」</p> <p>ジム (背) 「……」</p>	<p>ジム 「可哀想だが昼間は外で遊べない、生れつきな。」</p> <p>あんたがネゴシエーターさんかね」</p>	<p>ロジャー「？」</p> <p>ジム (off) 「あの子は体が弱いんだ」</p>	<p>タミ 「うん、そうね。あたしもそう思うわ」</p>	<p>ロジャー「勿論だとも。だが、ボールで遊ぶんだったら外の方がいい」</p>

64	63	62	61	60	59
!?とジムを見るロジャー	ジム 少し笑み浮かべ	汚れた天井	ロジャー 乗り出して ジムの手が上をさす !?と上見るロジャー	ロジャーの見た目	コーヒー出してゐるジム座る。部屋を見るロジャー。
ロジャー「天使？」	ジム 「昨夜(ゆうべ) 天使がこの町に降りてこられた」		ロジャー「は？」 ロジャー「は？」 交渉したいのです」	ジム (off) 「期待されても困るが、このホテルをあんたに譲ろうと思う。私が頼む交渉が成立した時には……」	ジム 「このホテルは私のものだ。貧乏人しか泊まらないから、身入りは」

70	69	68	67	66	65
<p>ロジャー 怪訝そうに 乗り出し</p>	<p>手をのばし、上を向くジム</p>	<p>目閉じて 問いに見て笑う 体を向ける</p>	<p>ロジャー 少し乗り出し</p>	<p>前見るジム 上を見る</p>	<p>静かに覗き込むタミ</p>
<p>ロジャー「!?」 ロジャー「仮にあなたがメモリー の断片をお持ち</p>	<p>ジム 「この時に見捨てられた我々を救い出 してくれるお方」</p>	<p>ロジャー(背)「あのお方とは？」 ジム 「この古いぼれのメモリーなんぞ、と つくに錆びついている。 だが、もうすぐ天からあのお方が降 りてこられるという事を、 私はずっと知っていたのだ」</p>	<p>ロジャー「それは、パラダイム社に回収された 様ですが」</p>	<p>ジム 「ずっと前から知っていたんだ。 昨夜は前触れの小天使が降りてこら れた」</p>	<p>ジム (off) 「私は、それを」</p>

76	75	74	73	72	71
ジムなめロジャー タミ 頷いて、ドア閉めて いく	タミ 心配気に ニコリと笑う	苦笑を浮かべて否定するロ ジャー	こちらを睨んで立つタミ	見つめるロジャー 突然の声に振り向く	ムツと見るジム 口元で手を組んでジムを見 る
ジム (滑) 「タミ、一人で遊んでおいで」 タミ 「うん」	タミ 「本当？」 ロジャー (off) 「ああ」	ロジャー 「ちがうよ、そんな事はしない。少し 話しに熱中しただけさ」	タミ 「おじいちゃんを苛めに来たの？」	ロジャー 「…」 タミ (off) 「ミスター」	ロジャー (off) 「そんなものがあるでしょうか？」 ちだとして、それは過去ではなく 未来のメモリーという事になる

81	80	79	78	77
ジムなめロジャー	ロジャーに力説 イス倒しつつ立つジム	怒りの形相で向く PAN うつむいてるジム OL	廊下 PAN 一人、ボールついてるタミ OL	座るジム、見るロジャー ジムなめ閉じられた窓
ジム (off) 「救われていい筈なのだ！」	ジム 「天から降りてこられるお方が、ドームの内側の人間だけを救済する筈がない。 あまねくここに生きる人間は」	ジム 「我々は先行きのない生活を、この四十年間して来た。これから先、ずっと同じであっていいわけがない……イヤッ！」	ジム (off) 「当然、友達なんていない。これからもずっとそうだなんていう事があつていいだろうか」	ジム 「あの子はずっと暗い所でしか遊んでこなかった」

<p>87 笑顔で見上げてるロジャー サングラス見て</p>	<p>86 手を振ってるタミ、後ろに ジム</p>	<p>85 見上げてるロジャー サングラスに手をかけると フツと上を見る</p>	<p>84 ビルの向うに広がる曇り空</p>	<p>83 手袋つけつつ歩いてくる 立ち止まって空を見上げる</p>	<p>82 PAN グリフォンなめ出 てくるロジャー</p>
		<p>ロジャー「……」</p>	<p>ロジャー(M)「だが、よもやこの厚い雲の上から 来るなどと、誰が想像しただろうか」</p>	<p>ロジャー(M)「そんな予感をこの街の誰も抱い ている」</p>	<p>ロジャー(M)「この街の外にだれかがいるかもし れない」</p>

93	92	91	90	89	88
<p>ハイウエイの橋脚を洗う波</p>	<p>双眼鏡見た目 クレーターへTU</p>	<p>双眼鏡覗いているロジャー 脇にINするエンジェル ロジャー 無反応 覗いたまま皮肉をかます</p>	<p>双眼鏡見た目</p>	<p>水没したビル群 PAN 停車しているグリフォン</p>	<p>しまう。</p>
<p>(SE) ザザ——ン</p>	<p>ロジャー (off) 「言われなれてる」</p>	<p>エンジェル (off) 「ロジャー・スミス、 (on) こんな所で偶然ね」 ロジャー 「私が探しているのは、名ばかりの偽 物ではない。本物のエンジェルさ」 エンジェル 「レディに失礼じゃない？」</p>	<p>エンジェル (off) 「あら」</p>		

<p>98</p> <p>ニッコリ微笑むエンジェル</p>	<p>97</p> <p>双眼鏡見た目 PD 足場にするフロッグメン</p>	<p>96</p> <p>?と見るエンジェル ロジャー 双眼鏡を渡して 手で位置をさす 体起こすロジャー 双眼鏡動かすエンジェル</p>	<p>95</p> <p>PAN ピクニック気分の エンジェル 無視して双眼鏡覗いてるロ ジャー 尻、「んっ」となる</p>	<p>94</p> <p>横倒しのビル PU 地面に寝そべっている二人</p>
<p>← ← ← ←</p>	<p>エンジェル(off) 「ああ…本当。」</p>	<p>エンジェル 「？」 ロジャー 「懐かしい我が友がやはりいたよ」</p>	<p>エンジェル 「前にもここに来たことがあったわ ね」 ロジャー 「デートをしたという記憶はないが— !？」</p>	

1 09	1 08	1 07	1 06	1 05
<p>すべっていくエンジェル 続くロジャー</p>	<p>ワイヤーにつかまって すべっていくエンジェル 続いてロジャー</p>	<p>金具をひったくって 歩いて行くエンジェル</p>	<p>ムツとなるエンジェル 「しようがない」と立ち コートの襟をひつつかむと おもいっきりひっぺがす 皮のボディスーツ着てる。</p>	<p>ワイヤー巻き取るトランク ピンと張られていく 金具を差し出すロジャー</p>
			<p>エンジェル「—— もう！ こんな事するなんて、予定 に無かったわ」 バサササ</p>	<p>(SE) キュラ〜キュラキュラ ピ——ン ロジャー「レディ・ファーストだ」 エンジェル「はア？」</p>

1 16	1 15	1 14	1 13	1 12	111	110
室内ドア ロジヤーが押し開く	暗く続く洞窟	立ちネクタイ直すロジヤー 近づいてくるエンジェル	覗くロジヤー、飛び降りる 続くエンジェル	岩場に着地するエンジェル 続くロジヤー	近づいてくる穴	覗き込むロジヤー
	ロジヤー(潜)「こんな所に工場でもあるのか？」 エンジェル(潜)「私も知らなかった」		(S E) (重い重機の作動音)			

122	1 21	1 20	1 19	118	1 17	
見上げてる二人	ぶらさがってる三体のメガ デウス TB	上方見てるエンジェル 驚 いてる 見るロジャー、目を見張る	見上げているロジャー エンジェルを見る	上方に巨大なクレーン	後ろ気にするロジャー 上を見る	ロジャー 手前に隠れて 続いてエンジェル
エンジェル「何故ここに…」			ロジャー「何だ、ここは…」			

129	1 28	127	126	1 25	1 24	123
見つめているエンジェル	く エンジェルの手から離れて 風船	三体のメガデウス	う つ む く エンジェル OL	驚いてるロジャー 睨み上げているエンジェル	ビッグオーのアンカーの形 に抜けてる穴	三体のメガデウス P A N
エンジェル(off) 「私は止めた」			ロジャー(off) 「いつの間に…」	ロジャー 「私が倒したメガデウス…」		

1 36	135	134	1 33	132	131	130
詰問するロジャー 足元に着弾	たじろぐエンジェル	エンジェルを見るロジャー	「はっ」と振り返る かみ合わない答えを言う と	倒れこむメガデウス達	敵をふつとばすビッグオー	ふつとばされるメガデウス
ロジャー「君はやはり遠くの (SE) ブキユ——ン!!	エンジェル「……」	ロジャー「……」	エンジェル「……判らない……」 「……！」			エンジェル(off)「今この街に来させても、何も判らないし何も得る事は出来ない」と

1 42	1 41	1 40	1 39	1 38	1 37
<p>俯瞰 隙間の二人 怒鳴ってるエンジェル</p>	<p>ロジャーなめ怒鳴るエンジェル</p>	<p>緊張感のないロジャー 時計のへзелをいじってる</p>	<p>木箱の隙間 来るエンジェル 直後、木箱に凄まじい着弾</p>	<p>二人の足元に複数の着弾 逃げる二人</p>	<p>銃を向けてるフロッグメン 尻、2発撃つ</p>
<p>エンジェル「そもそもあなたが危険なところに 出入りしようってのに」</p>	<p>エンジェル「だからっ！ 今日ほこういう事を する予定じゃなかったって言ってる でしょ!?! 人ごとみたいに言わない で!!」</p>	<p>ロジャー「今日は銃はないのかね」</p>	<p>エンジェル「——!!」</p>	<p>(SE) ズギューン、ズギューン ズギューン</p>	<p>(SE) ズギューン、ズギューン</p>

1 48	1 47	1 46	1 45	1 44	1 43
<p>焦るエンジェル のほほんロジャー</p>	<p>木箱の中を進んでくるフ ッグメン達</p>	<p>停まるモノレール 降りてくるフログメン</p>	<p>PAN 箱に近づくフロッ グメン</p>	<p>エンジェルなめ苦笑してい るロジャー 銃声がやむ。!!と向く二人。</p>	<p>アオリ メガデウス三体</p>
<p>ロジャー「届くかなア？」 エンジェル「何が、ですって？」 エンジェル「!!」</p>	<p>エンジェル(aff)「どうするのよ！ ミス!!」</p>	<p>ロジャー・ス</p>		<p>二人 「!!」 ロジャー「おやおや、叱られてしまった」</p>	<p>エンジェル(aff)「身を守るものをもたないのが怠 慢なのよっ!!」</p>

1 55	1 54	153	1 52	151	150	149
隙間から飛び出す二人 驚くフロッグメン	煙が晴れて爆発で開いた穴 が見える 現れるグリフォン バンパーに絡まるアンカー	のびて行くアンカ&ワイヤ	?と見上げるフロッグメン 発射されるアンカー	工場の天井で爆発	時計の文字盤押すロジヤー	銃を構えたフロッグメン IN
				(SE) ド——ン	(SE) ピコッ	

1 61	1 60	159	158	1 57	1 56
グリフォン バックでOUT 着地すると走ってOUT ロジャー 反動つけ跳ぶ。 ンプするエンジェル バンパーにつかまり、ジャ	手のばし、行くエンジェル 俯瞰 上昇してくる二人	巨人の間を上昇する二人	制止するフロッグメン	上昇しているロジャー メガデウスに着弾	フロッグメンの前を通過す るロジャー それを追う銃火

(SE)

ボンボン

1 73	172	1 71	1 70	169	1 68
ケーブルカー乗り場前にPAN 中途半端に止まってる 立ち止まるエンジェル 横にロジャーIN エンジェルを見る	無人で暗い本社ロビー	受付前のロジャー PAN 歩いてくるエンジェル	(空の受付) ロジャーの手がノックする	包丁立てに差込まれる包丁	ドロシー 包丁をくるくる回す
ロジャー「今頃？」 エンジェル(off)「信じられない…」 エンジェル(off)「上級幹部達はみんな東端の リゾートドームへバカンスに行つて るわ」		ロジャー「留守の様だな…」 エンジェル「パラダイム本社までもぬけのカラ だなんて…」			ドロシー「…」 (off) ゆっくり楽しんで来なさい」

179	1 78	1 77	176	1 75	1 74	
見つめているドロシー	P U 外を見上げてるタミ 奥へ行く	俯瞰 行くドロシー 走っていく子供 立ち止まり上見るドロシー	籠を抱えて歩くドロシー	警戒してるロジャー 降りてくるケーブルカー	ライトついて TB 動き出ロビー列車	全館の明りがつく
				ロジャー「これは…」	(SE) (汽笛) パア——ンツ	二人 「!!」

186	185	1 84	1 83	1 82	181	1 80
ニヤリと笑ってるアラン	座りこんでるアラン	ロジャーー !!と身構えて アランを探す 左見て!!となる	見回してるロジャーーとエン ジェル アランの笑い声が響く	ジムに集まる人々 手前、踊ってる女達	酒飲んで笑ってる中年男	集ってる人々 P A N 踊る中年の女性
エンジェル「アラン・ゲイブリエル！」		ロジャーー「!!」 アラン(off)「招かれざる客でも客は客。もてなし てあげようか」	アラン(off)「カカカカツ」 ロジャーー「誰かつ！ 誰かいるのか!!」			

1 91	1 90	1 89	1 88	1 87
INするロジャー 駆け込む	階段かけ上るロジャー ケーブルカーへ入るアラン	ダツと出るロジャー 乗り出すエンジェル	恭しく頭下げる PU アラン 笑いつつ	!!と向く二人 TB 立つアラン
	エンジェル(off)「ロジャー・スミスっ!!」	ロジャー「このっ!!」 エンジェル「!! 相手は殺し屋なのよ、丸腰で どうしようっていうの!!」 <i>を下のしむようなやつよ</i>	アラン(off) (on)「今更取り戻してどうする? ポ ンコツアンドロイドがクライアント だった事がそんなに恥ずかしいかい、 ネゴシエイター殿」	ロジャー「お前が破壊し、うばったクライアン トのメモリー、返してもらおうか!!」

1 96	1 95	1 94	1 93	1 92
<p>人々を不思議そうに見ているドロシー</p>	<p>静かに語っているジム 上を向き目を閉じて胸前で手を合わせ</p>	<p>ジムを囲んでいる人々 ジム 手広げて</p>	<p>閉じるドア ロジャーー !!と向いて開けようとするが開かない 上へ上つていくケーブルカ</p>	<p>P A N 車内 アランはいない</p>
	<p>ジム 「だが、きっと我々には深いきずなで結ばれた血が流れているに違いない。だからこそ、天より我々に救いが訪れようとしている」</p>	<p>ジム (潜) 「我が同胞よ、何故我々がこのドームの外で家族のきずなをもっているのか、その記憶を我々はもたない」</p>	<p>ロジャーー「!!」 ← ← (S E) (発車ベル) ジリリリリン</p>	<p>(S E) (ドアが閉まる音)</p>

202	2 01	200	1 99	198	1 97	
笑っているタミ	ドア前にドロシーとタミ 子供が走り抜けていく	ドロシー 小首かしげて	見上げているタミ	タミを見ているドロシー	タミ ドロシーの袖をつか んで	!?!と見る
	タミ (潜) 「ええ、お昼の光に当たると私、気持 ちが悪くなっちゃうの。お外にずつ といたらあたしは死んじゃうんだっ て」	ドロシー 「あなたは違うの？」	タミ 「でも、あなたは明るいお外を自由に 歩けるのね？」	ドロシー 「——…」	タミ 「こんばんは。あなたもお顔が白いの ね。私みたい」	

2 08	207	2 06	205	2 04	2 03
<p>向き直るアレックス イスの後ろに消えるアラン</p>	<p>ヌヌツと睨むロジャー</p>	<p>アラン 恭しく帽子を取り お辞儀をすると イスに乗ったアレックス IN</p>	<p>出てくるロジャー</p>	<p>停車場ホームに停まる ドア開く</p>	<p>パラダイム屋上庭園 PAN 尻、登ってくるケーブブル カー</p>
<p>アレックス「非礼な出迎えを許してくれたまえ。 相も変らない活躍ぶりだね。ロジャ ー・ザ・ネゴシエイター。いや」</p>	<p>ロジャー「アレックス・ローズウォーター」</p>	<p>アレックス (off) (on)「あいにく社員が出払って てね」</p>		<p>(SE) キキ——ツ (SE) プシユ——ツ</p>	<p>(SE) ガタンゴトン、ガタンゴトン</p>

2 14	2 13	2 12	2 11	2 10	209
<p>柱なめ歩いてくるロジャー</p>	<p>ボード上のランプのライン (流PAN) 巻頭で街に落ちた奴： PAN 落ちてる奴：</p>	<p>エンジェル 周りを見つつ 左を見て、!?!となる</p>	<p>全景</p>	<p>シテイのミニチュア PU エンジェル</p>	<p>余裕のアレックス</p>
<p>ロジャー「このドームから真っ先に出て行った と思ったが」</p>	<p>エンジェル(off)「何これ：」</p>	<p>エンジェル「アッ」</p>	<p>エンジェル「アレックスは未来のメモリーを手 に入れたって言ってたけど：」</p>		<p>アレックス「メガデウス・ドミニユナス(操縦者)」</p>

2 18	217	2 16	215	
<p>空 セントラルドームよりPU</p>	<p>アレックス</p>	<p>振り返るロジャー</p>	<p>UP ひしやげた金属片</p>	<p>アレックス 柱を示す 見上げるロジャー PU 先端にはカプセルに入った破片</p>
<p>(off) もうすぐ、その本体がこのパラダイムシティに降臨する</p>	<p>アレックス「正しくは、そのほんの一部分さ。」</p>	<p>ロジャー「あんなものが天使の正体だと言うのか？」</p>	<p>ロジャー (off) 「あ、あれが!？」</p>	<p>アレックス「空からお出で下さるお方をお迎えしないのは失礼だろうか？」 ロジャー「一体何が来るといふのだ」 アレックス「そこにいる。昨日の夜、先に降りてきた天使さ」 ロジャー「——!」</p>

2 24	223	2 22	221	2 20	219
ボード上のランプライン 光点更に移動 P A N	ディスクなめロジヤー	アレックス 笑いながら 目元からはずし ロジヤーに向ける	ディスクの穴ごしロジヤー	アレックス ディスクを取り出す	ロジヤー 目を見開く
ロジヤー (off) 「確実に起こる事とは一体何だ？」	アレックス (off) 「それは自然な事だろうか？」	アレックス 「おかしく思うのも無理はない。 しかし、遠い過去に原因があり、そ の結果が未来に確実に訪れる」	ロジヤー 「そんなものを私は信じないっ！」	アレックス (off) 「君が見つけたこのアンドロ イドのメモリーのおかげで知ることが 出来た。 この街の未来のメモリーだ」	ロジヤー (off) 「本体だって？」

2 29	2 28	227	2 26	2 25
<p>飛び降りるエンジェル</p>	<p>地面にささるディスクなめ ロジャー。 と、声に見る</p>	<p>落ちて行くディスク</p>	<p>柱の上の衛星の破片</p>	<p>石の柵なめ対峙している二 人</p>
<p>エンジェル(滑)「軌道計算によると、落下地点は ドームの外よ」</p>	<p>ロジャー「ここに落ちてくる：という事か——」 エンジェル(off)「いいえ。落ちて来るのはこ こじゃないわ！」</p>	<p>いずれは朽ちて：」</p>	<p>ロジャー(off)「星を？ 何の為に？」 アレックス(off)「さア？ ただ、その星はあくま で人が作った鉄の機械、</p>	<p>アレックス(off)「遠い昔の人間が我々より賢 かったとは私は考えていない。だが、 科学や技術は今より大がかりな事を 成し得ていたようだ。例えば自分た ちで星をつくり、この世界の周りに うかばせるとかね」</p>

2 35	2 34	2 33	2 32	2 31	2 30
<p>耳押えて 話すダストン トランシーバーに向かつて</p>	<p>歯がみするロジャー 時計の無線に呼びかける</p>	<p>受け流すアレックス</p>	<p>乗り出すロジャー</p>	<p>アレックスなめロジャーの 横に並ぶエンジェル</p>	<p>ゆかいそうなアレックス</p>
<p>ダストン「ああ？ 何？ ロジャーか！ え？」 (SE) (祭りのさわがしい音)</p>	<p>ロジャー「くっ—— ダストン！ ダストン出てくれ!!」</p>	<p>アレックス「それは見解の相違というものだね」</p>	<p>ロジャー「ドームの外も同じパラダイムシティ だ」</p>	<p>エンジェル「ドームの外の人達にどうして知ら せないの」 アレックス(off)「それが運命なら、逆らうのは愚 かな事だからさ」</p>	<p>アレックス「君はクビにしたのに良く知ってい るね」</p>

2 41	2 40	2 39	2 38	2 37	2 36
<p>拳に力が入るロジャー</p>	<p>ロジャーを指さす</p>	<p>P A N ロジャーなめアレ ツクス</p>	<p>P A N アレックスなめロ ジャー</p>	<p>笑ってるアレックス 雲の一角が明るくなる</p>	<p>ハリボテの天使をかついで る男と子供 P A N 奥にパトカーとダストン</p>
<p>ロジャー (off) 「——！」 資格はないね</p>	<p>アレックス (off) 「君にはやはりメガデウス・ドミ ユナスの ←</p>	<p>アレックス 「フフフ：君こそ自分を買いかぶつ てはいないかね」</p>	<p>ロジャー 「この世界の神を気取っているつもり か」</p>	<p>アレックス 「今から避難させると？ 間に合う 筈がないさ」</p>	<p>ダストン (off) 「ちよつと待ってくれ、聞こえ難いんだ。 え？」</p>

24 6B	246A	2 45	244	2 43	2 42
ロジャーの口元 ニヤリと笑い 左腕をかかげる 腕時計みせつけて	対峙する二人と一人	笑うアレックス	きつぱりと言い放つ	ロジャー	アレックスと向き合うロジ ヤー
		アレックス「ハンツ、君に何が出来る、何の力がある？」	私は断固戦う	← 世界を再び暗黒に戻すメモリーを利用しようとするなら	← ロジャー「(だんだん強く)アレックス、あの異国から来た三体のメガデウスで何をしようとしているのか知らないが、

2 53	2 52	251	2 50	249	246	248	247
大声で怒鳴るダストン	大声で呼びかけるダストン 人々は空を見上げている	ドロシー	ボールを拾うタミ 体起こし、ドロシーを見る	起動するビッグオー	時計に叫ぶロジャー	(挿入) 見ているエンジェル	(挿入) アレックス目細まる
ダストン「みんなっ、ここから避難するんだっ !!」	ダストン「オイッ、避難するんだ早くっ」	ドロシー「ビッグ、オー？」	タミ「？」		ロジャー「ビッグオー」		

259	2 58	257	2 56	2 55	2 54
!!となるダストン、人々	ビル群 その向うに吹き上げる土砂	揺れるビルの谷間	揺れて 倒れる天使ハリボテ	ダストン 手おろし ゆらぐ人々	道からあふれた人々 PD ハリボテを先導して る人々
ダストン「!!」		(SE) ズズズ…		ダストン「くそっ」 (SE) ズドオオン!!	ダストン(off)「早くっ、時間がないんだっ!!」

2 67	266	2 65	2 64	2 63	262	261	260
ホテルから出てくるドロシ 、人々	止まるビッグオー	ネクタイを緩めるロジャー ペダルを踏み込む	明るくなってる空 光がつよくなってゆく	ビルなめ上空見上げるビッ グオー	来るビッグオー	人々なめ来るビッグオー足	煙の中にビッグオー見える
人々 「おお…天使様だー」等						人々 「わあ——っ！」	ダストン「黒いメガデウス!!」

2 74	273	2 72	2 71	2 70	269	268
声に?とモニター見る コクピット ロジャー	ビッグオー	!!と顔上げる 叫んでるダストン	向く人々 乗り出し叫ぶダストン	甲車 ビッグオーの後ろに来る装	雲の向うに光が見える	立ち止まり、見るドロシー
	OL					
ノーマン(通信) (off) 「ロジャーさま」	ダストン(off) 「あいつ、まさかあれを…」	ダストン 「空からやってくるのは天使なんかじゃないんだぞっ!! !!」	ダストン 「避難するんだ、ここは危険だ!!」			人々 「(ガヤ)」

280	2 79	278	2 77	2 76	2 75
光球 大きく な っ て い く	OL コクピット ごし 迫 る 光 P A N T U	顔 上 げ る ロ ジ ャ ー	頭 下 げ る ノ ー マ ン 消 え る モ ニ タ ー	苦 笑 す る ロ ジ ャ ー	モ ニ タ ー 上 の ノ ー マ ン
	OL ロ ジ ャ ー (滑) 「天 使 様 を ど う や っ て お む か え す れ ば い い か な」	ロ ジ ャ ー (off) 「さ て っ …」	ノ ー マ ン 「恐 縮 で ご ざ い ま す 。で は」	ノ ー マ ン (off) 「未 だ 戻 り ま せ ん で し て」 ロ ジ ャ ー 「仕 方 な い …。私 が 買 っ て 帰 ろ う」	ノ ー マ ン 「お 夕 食 の ご 用 意 が 出 来 て お り ま せ ん 。 ド ロ シ ー に ピ ク ル ス を 買 っ て 来 て も ら う 筈 が」

286	2 85	2 84	2 83	282	2 81
<p>見てるエンジェル</p>	<p>空に放たれるビーム キャットウオーク 出てくるエンジェル</p>	<p>ビッグオー 腕広げ 拳合わせると額に光集まり クロムバスター 発射</p>	<p>ロジャー スイッチ押すと 浮き上ってくる</p>	<p>更に大きくなって来る光球</p>	<p>コクピットのロジャー</p>
<p>エンジェル「……」</p>			<p>ロジャー (off) 「しかし」</p>	<p>(SE) ゴゴゴゴ</p>	<p>ロジャー 「ほんの破片ですらあれだけの穴を開ける。ビッグオーと言えど、まとも に受けとめる事は出来ないだろう……」</p>

2 92	2 91	2 90	289	2 88	2 87
細くなつていくビーム P U ビーム出し続けるビッグオ	尻、グラスかかげる 楽しんでるアレックス	落下続けてる衛星 T B ドームの柱が I N I N するアレックス	外装、大きくバラけていく	衛星 外装ふきとばされてく人工	Q P A N ビームが当たって飛び散る

298	2 97	2 96	2 95	2 94	2 93
踏み込む左足のペダル	同様のポーズのロジャー 肩に力入って	エネルギー切れるビッグオ 拳を離してぐつとかまえ	唇かみしめてるエンジェル 向く 完全に消えるビーム	人工衛星、火の粉まきつつ 落下	細くなっていくビーム 衛星は小さくなっているが そのまま来る
	ロジャー「やはり、簡単にはいかないものかな」 だ		エンジェル「止められない…」		

3 05	3 04	3 03	302	301	300	299
人々の奥に構えてるビッグ オー PANTU 上空に迫る衛星	群衆を押しかえしてる警官	!!と見るダストン ハンドマイクに叫ぶ	右腕のパイルが返る	パンチ構えてるビッグオー	後ろへ退けられるレバー	踏み込む足
人々 「わくく」	ダストン(背)「退避——!!」 時間がないぞ——っ	ダストン「ロジャー!?!」 急げ——っ!!」			ロジャー(off)「ビッグオー、頼むぞ」	

3 12	3 11	310	309	308	3 07	3 06
迫る衛星 TB ビッグオーの拳 IN	落ちてくる衛星 カメラ前通過して シテイ全景へ落ちていく	同じく構えてるビッグオー	構えてるロジャー TB OL	叫ぶダストン PANTU OL	腰かけ、見つめるエンジエ ル PU	見上げてるドロシー TB 上見て祈ってる人々 OL

321	320	319	318	317	316	3 15	314	313
カチツと入るスイッチ	こらえてるロジャー PAN	装甲がひしゃげ、潰れる拳	当たるパンチ	当たるパンチ アオリ	衛星に当たるパンチ	OL ビッグオーパンチ 衛星入ってくる	前に戻るレバー	ロジャー
	ロジャー「ぐうっ…!!」						(off) タイムっ!!	ロジャー「ビッグオー!! ショウツ

←
ニほし

328	327	326	3 25	3 24	3 23	322
窓をつきやぶってくる破片	目を開くアレックス	広がる光の半球	アオリ ビッグオー 爆発に飲み込まれる	ビルなめパンチしてるビツ グオー 爆発する衛星	腕先よりショック波出て 衛星表面をショック波が空 へ抜けて	パイルがガンと戻る

334	3 33	332	3 31	3 30	3 29
光の雪を見上げるダストン	光の雪が降る街全景 PAN 手前にキヤトウオーク 尻、閉じるドア	空より降ってくる光のつぶ	尻、!?となる コクピットのロジャー	パンチ放ったポーズのまま のビッグオー P D	見つめるアレックス 歪んだ笑みを浮かべると シヤンパンを捨てる
				アレックス(off)「メガデウスは君だけのものでは ないのだよ」	アレックス(M)「ロジャー スミス……」

341	3 40	3 39	3 38	3 37	3 36	335
入口に立つジム	キョトンとしてるドロシー!!と向く ボールを受け取る	はしやぐタミ ドロシーの手を引っ張る	止まり、光の雪を見て 喜び、はしやぐ	!?と向くドロシー 走りこんでくるタミ	転がるボール、止まる。 前を走り抜けてくタミ	見上げてるドロシー
	タミ (off) 「ねえっ!」	タミ (背) 「(笑い) お姉ちゃん、あそぼうよっ!」	タミ 「ワア!! お昼になったみたいっ!」	タミ (off) 「(笑い声)」	タミ (off) 「わアっ (喜び)」	

3 47	3 46	345	3 44	3 43	3 42
ボールを追う様に走るタミ キヤッチして 投げようとする	ボール投げるタミ ドロシー 高く放り投げる !!と見上げるタミ、追う。	ジム 見ている O L	ボールを投げ返すタミ 投げ返すドロシー	タミ ボール受け取る ドロシーを見て笑う	ドロシー 思う間あって タミへ向く
	ジム (off) 「今夜一晩だけだとしても、あの子に とってあの光は…」 ←	ジム 「あの子が明るい外で遊んでいる…」	タミ (潜) 「えいっ」		ドロシー「……」

348

エンドのタイトル

高く放り投げるタミ
P
U

ジム
(off) 「天使なのだ」

次回予告

「Liviathan」

